

# 第42回 うつのみやこども賞だより

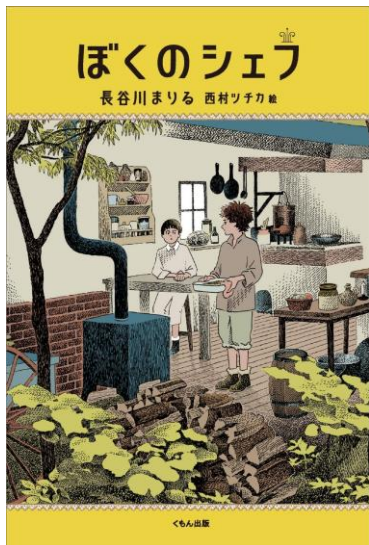
令和7(2025)年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ぼくのシェフ』

長谷川 まりる／作 西村 ツチカ／絵 (くもん出版)



令和8年 2月 1日

## ～読んだ本の感想より～

- シャールは料理の天才アズレと会って、いろいろな経験し、友情を深めていく所や、アズレがもともと、食死病だったことにびっくりしました。
- 「食べることは生きること」ということが伝わってきました。
- シャールとアズレは仲間になれたと思ったのに、二人が料理を好きだからこそ引けないプライドに圧巻。
- 食死病になると食べたいのに食べられなくなってしまい、とてもつらそうだった。
- アズレが生まれた時から食死病だということを知って、最近食死病にかかったシャールが今度は救われるというところに感動しました。
- 最後に、『マリーの田舎料理』がのっていて、本文に出ていた料理をつくれるのがいいと思った。
- 病気や違いがあってもがんばるのは大切だと思った。最後にシャールとアズレが同じ目線に立てたのがうれしかった。

## 『図書だよりとひみつのノート』

赤羽 じゅんこ／作 はらぐち あつこ／絵 (さ・え・ら書房)

- とうことちえりがまた仲よくできてよかった。ちがくても、ともだちになれることがわかった。
- 最後に工夫をしながらたよりをつくれたのがよかった。
- 弟のことを大切に思うちえりがとてもかっこよかった。交かん日記の代わりに使っていた手紙を大事にはっておくなんて、とても感動した。
- 図書だよりを通じて、自分のこと、相手のこと、多ようせいを伝えていく本だなと思いました。
- ちがいすぎていてもなお、親友のことを思う所がすごいなと思いました。
- とうことちえりの友情は深いと分らせてくれる本だった。

## 『リヒト!』

イノウエ ミホコ／作 犀将／絵 (文研出版)

- レイさんがセツさんの姉とうたがってしまうほど陽気な人でびっくりした。私はリヒトがドイツ語だと光という意味なのはぐうぜんじゃないと思った。
- 受験生である理人がマサムネとドイツに行く物語で、オランダからドイツに国境を越えるというのが面白そうで、自分も行ってみたいと思った。
- リヒト!という題名と、こうごうしいツリーの星を見て、節さんはリヒトの心をてらしていると思った。
- 家族とのつながりを知るために外国に行ったけれど、その所の良いところについても知れたことがおもしろかったです。
- 初めは人に興味を表さない理人だったけど、だんだんと心情が変わっていくのがおもしろかった。

## 『千年先のあなたへ』

佐藤 まどか／作, 佐藤 真紀子／絵 (BL出版)

- さまざまな宮大工、神社のことなどをいろいろ知ることができた。
- 宮大工についてもっと知りたくなったし、テレビで見たことがあったから大変だということは知っていたけれど、ここまでとは知らなかった。夢で見たのは、杏の未来なのではないかと思いました。
- 宮大工の大切さがわかっておもしろかったです。
- 算数が建築に役立つことが初めて知った。
- 今の自分の行動は今だけで終わるものではないということを感じとれた。